

株式会社日本農業サポート研究所 平成30年度事業実績

年	月	事業内容
2018年～ 2019年	4月下旬	東京しごとセンター主催創業「寺子屋塾」入門コースで、弊社代表福田浩一が創業体験談を講演し、参加者22名と意見交換会を行った。
	4月～3月	農研機構が中心となって進めている、革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)「養水分制御を基盤とした樹体管理技術の確立による高品質カンキツ果実連年安定生産の実証」で、弊社はコンソーシアムの一員として「持続可能なカンキツ作経営ビジネスモデルの開発」を担当。愛媛県・広島県のカンキツ産地でアンケート調査やヒアリング調査などを行い、ビジネスモデル案を作成した。
	6月下旬	アジア農業協同組合振興機関(IDACA)がJICAから受託、実施している平成30年度課題別研修「農業協同組合の組織化推進と事業運営能力の向上」コースで、弊社代表(日本農業サポート研究所 福田浩一)がアジア、アフリカから9名の研修員を対象に農業普及の研修を行った。
	8月上旬	2018年度JICA課題別研修「稲作技術向上」で、「農家支援のためのICT活用」について、弊社代表が講師を務めた。この研修コースは、JICAから委託された一般社団法人海外農業開発協会(OADA)が実施し、アジア、アフリカから10名の研修員が参加した。
	8月下旬	「平成30年度 常緑果樹研究会」が福岡国際会議場で開催され、弊社代表福田浩一が「タイへのカンキツ輸出に対する支援の現状および輸出拡大への課題と方向性」と題して話題提供を行った。本研究会は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門が主催し、全体会議では、「カンキツ輸出の現状とその促進にむけた生産・流通技術の展開方向」をテーマに6名の方が講演し、その後総合討論が行われた。
	9月下旬	神奈川県で「平成30年度普及指導活動外部評価」が行われ、弊社代表が評価委員として出席、とりまとめに携わった。
	11月上中旬	農林水産省が進めている農業情報標準化の調査の一環で、弊社代表がタイ・マレーシア・フィリピンの3か国を訪問した。この調査はNECソリューションイノベータ株式会社から委託され、実施された。
	11月下旬	東京農業大学国際食料情報学部国際バイオビジネス学科3年生の学生を対象に、稲泉博己先生担当『バイオビジネス普及論』の特別講義で、弊社代表が「タイへのカンキツ輸出の現状と方向性および普及指導員による支援」とのテーマで、農産物輸出の現状と普及指導員の役割について講義を行った。
	3月上旬	弊社代表(福田浩一)が福井県鯖江市の農事組合法人「エコファーム舟枝」を丹南農林総合事務所徳堂部長、菅江主任と訪問し、経営やICT導入の助言を行った。